

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 23 日

評価対象事業		評価者	道水路管理課長 伊藤 元敦	
都整-07	道路施設管理事業	☒ 自治事務	主管課	道水路管理課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	5-(4) 道路整備	施策の方針	5-(4)-①道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	道路機能を良好に保持するため。
効果	多様化する生活環境や市民等の安全性・快適性の向上を図るため、常に良好で円滑な道路機能の保持を図る。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

道路利用者の安全性・快適性を保ち良好で円滑な道路機能を保持するための業務を行った。 道水路許認可等を管理するための道路等占用管理システムを運用した。	

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	道路施設管理事業(全市)	維持修繕等		- / -	-	-	
				68,720 / 74,085	80,638		
02	道路施設管理事業(鎌倉駅)	鎌倉駅西口広場周辺 清掃業務委託、保守 点検等		- / -	-	-	
				1,633 / 1,796	2,016		
03	道路施設管理事業(大船駅)	大船駅道路管理施設 清掃業務委託料		- / -	-	-	
				73,422 / 76,944	77,934		
04	一般事務経費	消耗品費		- / -	-	-	
				381 / 500	500		
05	道路損傷等通報システム運用事務	道路損傷等通報システム 関連業務委託料	通報件数に対する対応 済み件数の割合 (%)	100 / 100	100	100	100%
				264 / 264	264	264	
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源 内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	144,420 / 109,559	161,340		
			一般財源	/ 44,030	12		
			事業費の合計(千円)	144,420 / 153,589	161,352		
			人件費(千円)		65,384	69,413	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	6.0	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5
会計年度任用職員	1.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	道路施設管理事業(全市)	良好で円滑な道路機能の保持を図るための維持管理業務であり、指標設定がなじまないため未設定。	道路・橋りょう等の安全性や快適性を確保するために不可欠である。	限られた職員数で市内全域の道路損傷等を即座に把握することが困難であるため、通報に活用できるシステムを稼働中。
02	道路施設管理事業(鎌倉駅)	良好で円滑な道路機能の保持を図るための維持管理業務であり、指標設定がなじまないため未設定。	道路の安全性や快適性を確保するために不可欠である。	—
03	道路施設管理事業(大船駅)	良好で円滑な道路機能の保持を図るための維持管理業務であり、指標設定がなじまないため未設定。	道路及びペDESTリアンデッキの安全性や快適性を確保するために不可欠である。	—
04	一般事務経費	消耗品費の執行であり、目標設定がなじまないため未設定。	—	—
05	道路損傷等通報システム運用事務	寄せられた通報に対して適宜対応したことから、達成度を100%とした。	道路・橋りょう等の安全性や快適性を確保するために不可欠である。	道路損傷等通報システムを稼働中。
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		4 法令等により、市に実施が義務付けられている
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
			協働実施済の場合のパートナー GoMA株式会社、市民等

(3) 総合評価

※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
管理施設の増加・老朽化や、近年の異常気象による住民要望の増加・多様化に対し、経費削減に努めながら予算規模については現状を維持している。 一方で、要望対応の効率化を図るため、委託方法などを検討する必要がある。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	通報件数に対する対応済み件数の割合						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
寄せられた通報に対して適宜対応することが、安全な道路管理及び市民の満足に繋がるため。	目標値	-	-	100	100	100	100	
	実績値	-	-	100	100	100		
	達成率			100.0%	100.0%	100.0%		

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--